

ゼミ合宿のご報告

2022年8月24日(水)~26日(金)に、マーケティング論ゼミナールの学生(研究生を含めて15名)が、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにて、ゼミ合宿をおこないました。

マーケティング論ゼミでは恒例となっている合宿ですが、内容は盛りだくさんです。初日は、4年ゼミ生の卒論中間報告会を開催しました。マーケティング論ゼミでは、学生の興味に沿ったテーマ設定を行います。就職活動を通じて知り得た業界の構造や特徴、成果と課題などに着目したものも少なくありません。就職後の活躍が不安になりがちな卒業後が少しでも明るくなるように、研究を通じてどのような挑戦が可能なのかを考える機会になります。今年も、さまざまな企業、業界の構造に迫り、成果や課題に触れつつ、独自の分析フレームワークを用いて、大胆に議論する研究が揃いました。

卒論中間報告会のあとから2日目にかけては、実務家の講演を拝聴する機会を持ちました。製造業からサービス業までさまざまな業界でご活躍の方をお招きしました。若手社員が生き生きとキャリアを語る場もあれば、副社長やCMOといった管理職の立場から全社的な戦略や今後の展望を伺う機会がありました。社会構造が劇的に転換する時代にあって、あらゆる企業が変化に対応した事業活動を意識しなければなりません。ご登壇になった方は、異口同音に外部環境の変化への対応を指摘します。また、その変化に対し企業活動の方向性をどのように位置づけているのか、どのような戦略的な思考に基づいて行動しているのかについて、さまざま学ぶことができました。質疑も活発に行われ、普段の学生生活では触れることのできない企業の最前線を肌で感じる、貴重な機会になりました。

最終日は、私たちマーケティング論ゼミナールが経営アナリスト研究会と共催して行事を運営しました。その行事とは、経営分析を中心とした研究活動を発表する場である、「第4回全国研究協議大会」です。今年は、本学に加え

学生の研究報告の様子



実務家の講演の様子(パイオニア CMO 井上氏)



実務家の講演の様子(オイシックス・ラ・大地 小川氏(オンライン))



明治大学や高千穂大学からの参加もあり、他大学の学生との交流の場にもなりました。

最初に、公認会計士の赤岩先生より、東証の市場区分再編に伴う有価証券報告書の作成方針の変更について、ご講演を賜りました。ますます注目される非会計情報ですが、私たちは表示される情報をどのように理解して読み解くのが望ましいでしょうか。企業活動を深く理解するために必要な視点を、実績豊富な公認会計士の先生から伺うことができました。

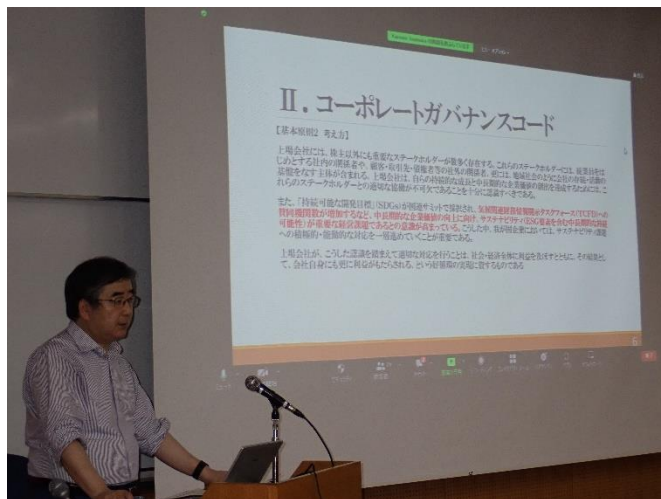
続いて学生の研究報告です。本学からは3本のほか、明治大学から2本、高千穂大学から1本の計6本の研究報告が行われました。他大学の研究報告は考察の独自性があり、さまざまな角度からの議論が実現しました。

ところで、この大会は(株)ユーゴーや税理士法人報徳事務所から協賛いただいているほか、全国商業高等学校協会などの後援行事でもあります。関心を持つ高等学校の先生方や会計事務所に勤務している方、そしてゼミ卒業生も集うにぎやかな大会となりました。参加者数はオンラインを加えると総勢36名が参加し、この日も活発なディスカッションが行われました。

学生にとってゼミ合宿は、ゼミ活動の成果を問う場にもなります。また、仲間とともに過ごす貴重な時間であり、それが「腹心の友」になるのであれば、有意義なことでもあります。

さいごに、新型コロナウイルスが感染拡大の局面での合宿でしたので、懇親会などは行いませんでしたが、こちらは事後にオンラインで開催することで、現役学生と社会人との交流の場は担保することにいたしました。現地では、万全の対策を施して実施することで、現地で体調不良者が出るなどの問題は生じませんでした。まだまだかつてのように落ち着いてゆったりと活動することはできませんが、対面での研修が実現することでしか得られないさまざまな経験ができたと考えます。学生の前向きな姿勢もあって、良い合宿になりました。これも、後援会の支援の賜物です。末筆ではございますが、皆様のご支援に心よりお礼申し上げます。

赤岩先生(公認会計士)の講演



片山さん(明治大学)の研究報告



多くの参加者に恵まれました

